

# 27PA-am147

薬用植物の種子発芽に関する研究—オクラ、ヒナタイノコズチ、トウイノコズチ、チリメンアカジソ、クララ、カリンの種子発芽に及ぼす温度の影響  
○熊谷 健夫<sup>1</sup>, 刈野 裕之<sup>1</sup>, 川原 信夫<sup>1</sup> (医薬健康研・薬植セ・筑波)

【目的】国内で栽培可能な薬用植物でかつ需要が高い薬用植物を中心に、種子の発芽条件や休眠性等の情報整備を目的として、薬用植物資源研究センターで採取した来歴や生産年度が明らかな種子を材料に用い、薬用植物種子の発芽試験の標準化に向けた試験を行った。この結果、一部の植物で至適条件が得られたので報告する。

【方法】オクラ、ヒナタイノコズチ、トウイノコズチ、チリメンアカジソ、クララ、カリンの種子の発芽に及ぼす温度の影響を検討した。各植物の種子は試験年の前年産栽培種子を用いた。発芽床に50粒の種子を置床し、15、20、25及び30℃の4段階の一定温度に設定したインキュベーター内で試験を行い、照明条件は、12時間の明暗サイクルで行った。各温度条件ともに3反復で行った。

【結果および考察】オクラは20～30℃の発根、出葉（子葉展開）率が高く、25℃で発根率87%を示し、25～30℃で発根・出葉所要日数が短かった。ヒナタイノコズチは15～25℃の発根率、出葉率が高く、20℃で発根率93%、出葉率91%を示した。トウイノコズチは15～25℃の発根、出葉率が高く、15℃で発根率97%、出葉率94%を示した。チリメンアカジソは20～25℃で発根率、出葉率が高く、20℃で発根率89%、出葉率87%であった。クララは20～25℃の発根、出葉率が高く、20℃で発根率13%、出葉率13%であった。カリンは15～20℃の発芽率が高く、発根率は15℃で84%、20℃で65%であった。以上の結果より、各植物の最適な発芽温度は、オクラでは25～30℃、ヒナタイノコズチ、トウイノコズチでは15～25℃、チリメンアカジソ、クララでは20～25℃、カリンでは15～20℃であると考えられ、今後、上記薬用植物の効率的保存・増殖法の検討に資するものと期待される。